

## カリンズ森林保護区における活動報告

京都大学霊長類研究所 橋本千絵

## 1) 環境教育センター改善

2003年度の日本NGO支援無償資金協力の支援を受けて建設したカリンズ森林環境教育センターでは、月例講演会、サンデースクール、地域の小学生を対象とした授業など、環境教育のためのさまざまなプログラムが進行しており、地域社会の情報発信基地としての役割を担ってきた。

しかし、プログラムが順調に進む一方で、様々な問題も生じた。なかでもとくに問題となっているのが、建物の暑さ対策だった。センター建設時は、多くても50人くらいの聴衆を想定して部屋の広さや椅子、机を用意したが、実際には月例講演会などではこれをはるかに上回る聴衆が集まるようになった。多いときには300人を超える聴衆が詰めかけ、センター内は蒸し風呂状態になってしまっていた。大人たちは何度も出入りして涼み、前の方に座る子どもたちは服を脱いで暑さをしのぐという状態になっており、地元からも何とかしてほしいとの要望が寄せられていた。地域の人を招いての講演会なので、入場を制限するわけにもいかず、何らかの対策が迫られていた。

この問題を解決するために、以下のような改修工事を行った。

1. 現在トタンの屋根がむき出しになっているところに天井をつけ、屋根の熱が直接室内に入らないようにした。
2. 天井に大型のファンをとりつけ、送風できるようにした。
3. 現在使用している発電機の出力が小さく、映像・音響装置のみで出力を使い果たしている状態なので、発電機を買い換え、天井のファンを回せるようにした。
4. 大型の発電機の騒音を低減するため、屋外に発電機収納小屋を造った。

## 2) 森林パトロール事業

カリンズ森林保護区では、違法な猟や森林局の許可のない伐採が行われている。これらの密猟や密伐を防ぐため、2人のパトロール員を雇い、毎日パトロールを行っている。罠を見つけた場合、場所を記録し、罠を撤去している。密伐に関しては森林局へ報告し、取り締まりを要請している。今期は、本資金によって、12月から雇用を開始し、引き続きパトロールを行っている。

## 3) 観光客宿泊施設維持費

エコツーリズムの観光客用に現在4つの木造のテント小屋があるが、安全に使用するためには、毎年わらぶき屋根や階段の修理を行う必要がある。今年度は、階段の改修および土台の修理を行った。

## 4) 村支援事業

カリンズ森林に隣接するカヤンガ村においては、コミュニティツアーを実施し、村人も森林保護に対して積極的に活動を行っている。こうした村の活動を支援するため、道路を改修する工事の費用の一部負担した。

I 収入の部			
寄付金収入(日本モンキーセンターより振り込み)	1900000 円		1,900,000 円
前期繰越	0 円		0 円
合計			1,900,000
II 支出の部			
1) 教育センター改善費用			
1. 環境教育センター改修費(天井・発電機小工事費を含む)	3,426,000 Ush		235,564 円
2. 発電機(本体および送料含む)	1,543,000 Ush		106,093 円
3. 環境教育センター・シーリングファン	160,000 Ush		11,001 円
小計			352,659 円
2) 森林パトロール			
1. 人件費(パトロール員)2人×1ヶ月	186,000 Ush		12,789 円
小計			12,789 円
3) 観光客宿泊施設維持費			
1. 観光客テント小屋修理費1500ドル	310,000 Ush		21,315 円
小計			21,315 円
4) 村支援			
1. 村道改修支援	100,000 Ush		6,876 円
小計			6,876 円
合計			393,638 円
当期収支差額			1,506,362 円
次年度繰越収支差額			1,506,362 円